

■11月20日

ジェットスター・ジャパン (LCC)、機長昇格プログラム導入、韓国で訓練

ジェットスター・ジャパンは19日、自社パイロットの機長昇格プログラムが国交省から承認され、すでに10月27日より開始をしたことを発表した。

グラッドスクール、シミュレーター訓練、路線訓練ほか、ジェットスター・ジャパン所属の副操縦士が社内にて機長に昇格するための訓練プログラムを実施訓練期間は4か月。今回の機長昇格プログラムの導入から、現在マレーシアで行っているフルフライトシミュレーターの訓練など、韓国にあるCAE社訓練センターに変更を行った。

すでに機長候補生3名が10月末から第1回目の機長昇格プログラムを開始しており、2014年2月以降にはジェットスター・ジャパンにて養成された機長が誕生する予定。また、第2回目は既に4名が選出されており、訓練は11月末から開始される計画。

(ジェットスター・ジャパン プレスリリース)11/19

<http://www.jetstar.com/jp/ja/about-us/news> (-> <http://www.jetstar.com/jp/ja/about-us/news>)

スターフライヤー、国内線運賃を値上げ

スターフライヤーは18日、スカイマーク、AIRDO、ソラシドに続き、北九州—羽田線など4路線の国内線普通運賃を、来年2月搭乗分から引き上げると発表した。

同社は、原油価格高騰に伴う費用増に対し様々な事業運営の効率化を行ってきたが、企業努力でまかなえる費用削減の範囲を超えていると利用者に理解を求めた。

今回値上げを決めた4路線は、羽田—北九州線・羽田—福岡線・羽田—関西線・関西—福岡線。

■路線別値上げ例は以下の通り

対象路線	1月通常期(片道普通運賃)	2月通常期(片道普通運賃)
羽田—北九州線	32,600円	35,500円
羽田—福岡線	32,600円	35,500円
羽田—関西線	20,700円	22,600円
関西—福岡	14,000円	15,200円

(スターフライヤー プレスリリース)11/18

http://www.starflyer.jp/starflyer/news/2013/news_20131118_fare3.pdf (->

http://www.starflyer.jp/starflyer/news/2013/news_20131118_fare3.pdf)

外務省、カンボジア・ラオスからの訪日旅客、数次ビザ発給開始

外務省は11月18日から、カンボジア国民とラオス国民に対し、短期滞在数次ビザの発給を開始した。先般、安倍総理が両国を訪問し、各国首相とビザ緩和で合意したことに伴うもの。

対象はラオス国内に居住するラオス国民と、カンボジア国内に居住するカンボジア国民。一定の要件を満たし、ICAO基準の機械読取式旅券(MPP)またはIC一般旅券を所持する人が対象で、滞在は15日間、有効期間は最大3年とした。

また、日本—カンボジア、ラオス間の直行便開設に向け、航空協定締結の可能性の検討を含め、需要開拓と条件整備に一層努力していくこともそれぞれの国と合意している。

(トラベルビジョン)11/19

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59619> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59619>)

(外務省プレスリリース)11/16/17

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_000302.html (->

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_000302.html)

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_000301.html (->

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_000301.html)

日航、NTTドコモとマイル提携、2014年4月から

日航は19日、NTTと利用に応じてたまる会員サービスの「ドコモポイント」と「JALマイル」の相互交換を、2014年4月から始めると発表した。15年以上のドコモ利用者らが対象。

ドコモの5000ポイントは日航の2500マイルに交換できる。一方、日航の1万マイルはドコモの1万ポイントになる。

(JALプレスリリース)11/19

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201311/002722.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201311/002722.html>)

(時事通信)11/19

<http://jp.wsi.com/article/SB10001424052702304894104579207352411790082.html> (->

<http://jp.wsi.com/article/SB10001424052702304894104579207352411790082.html>)

エティハド航空、新地域航空会社設立

エティハド航空は19日、エティハドブランド初の地域航空会社を設立すると発表した。これは、スイスの地域航空会社であるダーウィン・エアラインの株式を33%取得し、エティハドブランドで運航する。

今後は関係機関の認可が降り次第、株式取得を実施。ダーウィン・エアラインを「エティハド・リージョナル」のブランドに変更する。エティハド・リージョナルではネットワークを再構築し、小都市からEYの就航地と、EYが株式投資をおこなっているエアベルリン、エアセイシェル、ヴァージン・オーストラリア、エアリングス、14年1月に株式取得予定のエアセルビア、投資予定のジェット・エアウェイズといったアライアンスパートナーのハブ空港への路線を開設する計画だ。

(トラベルビジョン)11/19

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59622> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59622>)

ロンドン、ヒースローに代わる新空港「ロンドン・ブリタニア空港」、テムズ川河口人工島に建設

(CNNによると)

英ロンドン近郊のテムズ川河口に浮かぶ人工島に新空港を建設する計画が提案された。

新空港の名称は「ロンドン・ブリタニア空港」。ロンドン中心部から80キロほど離れたテムズ川河口にあるシェピー島沖の人工島に建設され、滑走路6本と、空飛ぶ円盤のような形をした半透明の空港ターミナルを配置する。ターミナルは自然光を取り入れて樹木や芝生を育て、緑豊かな空間を作り出す。

計画はロンドンのボリス・ジョンソン市長が組織した企業連合の「テストラッド」が提案した。総工費は470億ポンド(約7.6兆円)で、約7年かけて建設する計画だ。

テストラッドによると、現在首都の玄関口となっているヒースロー空港は容量99%に達していて、滑走路を増やす必要があった。ブリタニア空港のプロジェクトが実現すれば、ヒースロー空港は閉鎖する予定だという。

ヒースロー空港は世界で3番目、欧州では最多の利用客を誇り、今後も増加が見込まれる。ただ、同空港を離発着する便はロンドンの上空を通過することから、騒音に対する苦情が絶えなかった。このため新空港は川の上に建設することにしたという。

(CNN)11/19

<http://www.cnn.co.jp/business/35040140.html> (-> <http://www.cnn.co.jp/business/35040140.html>)

(->)

ボーイング、777新型機、開発スケジュール、2019年最初のテストフライト

ロイターによるとボーイングの幹部は18日、旅客機777の新型機の開発スケジュールを示した。2015年に機体構造を固めて、2016年までに詳細な設計を行う。翌年から生産を始め、2019年に最初のテスト飛行、2020年に初の納入を行うという。初めて正式に導入する航空会社は現時点で未定という。

(ロイター)11/19

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTJE9AH00W20131118> (-> <http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTJE9AH00W20131118>)

国交省、パイロット2030年問題、新たな委員会設置、具体的方策検討

国交省は、11月18日の交通政策審議会航空分科会で、2030年頃には日本国内で新規パイロットの需要を満たすことが困難になる“パイロットの2030年問題”への懸念を示し、新たに「乗員政策等検討合同小委員会」を設置し具体的方策を検討することを確認した。

世界的な航空需要増大に伴い、世界中で2030年には現在の2倍以上のパイロットが必要とされている。加えて日本では団塊の世代ジュニアの乗員の大量退職時期が到来するため、航空会社は年間400名規模で新規パイロットの採用をしなければならない事態になると予想した。

新たに設置する乗員政策等検討小委員会では、パイロット供給能力の拡充を図るための具体的な方策として、私大など民間養成機関の支援強化、MPLなど新たな養成手法の活用方策、現役パイロットの有効活用方策などについて検討する。あわせて不足が懸念される整備士や、航空機製造業での航空技術者の育成などにも焦点を当てる。

尚、国内の主要航空会社におけるパイロット供給源シェアは2013年1月現在、航空大学校の出身者が39.9% (2,266人)、自社養成34.3% (1,948人)、外国人6.9% (392人)、防衛省6.6% (376人)、私立大学0.6% (32人)、その他11.8% (672人)。欧米など諸外国では、軍などが4割～5割のシェアを占めるという。

(日刊航空)11/20

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

国交省、自衛隊パイロットの民間パイロット転身制度、運用再開にむけ調整

国交省は、自衛隊のパイロットから民間航空会社のパイロットへ転身をあっせんする「割愛制度」の運用再開について防衛省と調整していると明らかにした。両省では、年間10～20名程度の転身を想定しているようだ。1970年代から始まった同制度は、先の民主党政権下で公務員再就職あっせん禁止の観点から停止された経緯がある。

(日刊航空)11/20

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(->) ユナイテッド航空、成田発着路線見直し、ヒューストン線増便、シアトル、バンコク線運休

ユナイテッド航空は、成田空港発着路線を一部変更する計画をまとめた。増便するのは、成田—ヒューストン線。3月31日から現在のデイリー運航からダブルデイリーに増便する。一方運休するのは2路線。成田—シアトル線を1月17日から、成田—バンコク線を3月29日から運休し、同路線はジョイントベンチャーを行っている全日空便で対応する。

(日刊航空)11/20

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)